

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

In honour of Professor ONISHI Hidefumi

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 武内, 旬子, TAKEUCHI, Junko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1868">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/1868</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 大西英文先生を送る言葉

武内 旬子

階段状の大教室の中央演題に教師が一人立つ。座席は聴衆で埋め尽くされている。教師の熱弁に聴衆の熱気で、さしもの大教室もはち切れんばかり。それに、そもそもこの部屋は閉じられていない。インターネットを通じて全世界に同時中継され、地球上のあらゆるところに、教師の熱弁が届く。

日本の地方都市の、そのまた郊外にある小さな大学の、教室ですらない小さな研究室に数人の学徒がやって来る。そこで、一人の教師が密やかな声で語る。どこにも実況中継されず、宣伝もされず、そこに、このような場があること自体、ほんのわずかな人々にしか知られていない。

大学とは何か、大学教育とはいかにあるべきか、様々な場で、様々な人々によって議論されている。議論百出自体は歓迎すべきだろう。そもそも、大学とは議論の場であり、また、社会の変化と共に変容すべき組織の一つに他ならないのだから。「インターネットで全世界同時中継」の講義こそ、これからのあるべき大学、世界規模での競争に勝ち抜く大学を象徴するもの。当然、そこで語られる言葉は英語であり、英語でしかあり得ない。言語的価値の問題ではない。「世界」に届けようと望むなら、今日、否が応でも、英語しか選択しようがないのではないか。これからの学問的業績は、世界標準で評価されるべきである。「インターネットで全世界同時中継」できない講義だの、日本語でのみ発表される業績などに何の価値があるだろう。然り。大学は今、未曾有の競争にさらされているのだから。

大西英文先生は、長く、本学で西洋古典学を講じて来られた。古典ギリシア語やラテン語はもとより、語学文学にとどまらない古代ヨーロッパ文化の全体を視野に入れた西洋古典学を、ヨーロッパ文化の根幹を理解するために必要な考え方を、少数の熱心な学生たちに語って来られた。大教室が一杯になることはなかった。しかし、より熱心で、深く学びたいという学生たちは、教室にとどまらず、個人研究室にも集い、たとえほんの数人の参加者であっても、深い知的喜びを分け合うという行為が、丁寧に、静かに、長年にわたって続けられてきたのである。なんというコスパの悪さだろう！ しかも、ごく一部の人にしか知られていなかったとは、広報がすべての時代に何という無駄！大西先生はまた、ラテン語で書かれた古典文献を日本語に訳すという仕事でも知る人ぞ

知る重要な研究者である。しかし、学問的価値がどれほど高くとも、売れない、大学の宣伝にもならない地味な仕事は、資金と余裕のあるよその大学がやればよいことではないか。

だが、筆者は確信している。元・外事専門学校が、神戸市外国語「専門学校」ではなく神戸市外国語「大学」であり続けてきたのは、大西先生の実践してこられたような教育と研究のおかげである、と。本学は、高い実用的語学運用能力と広く深い教養の両方を兼ね備えた人材の育成をうたっている。もちろん、前者を軽視してよいはずがない。実践的語学教育の充実に、努力や資力を注ぐことに誰も反対しない。問題は後者を、本当に、絵に描いた餅にしないために何をすべきか、何ができるか、である。広く深い教養を身につけるには学生にも大学にも、手間暇コストがかかる、かかりすぎる。では、本学は、大西先生の去られた後どうするのか。先生は、そのことを心配しておられた。自分のポストだから、ではない。総合文化の会議でも、およそ、感情的に自分を主張されることなど絶無だった先生が、これだけは、と切羽詰まった様子で発言された。英語を始め外国語を駆使して世界で活躍する人材の、知性の基礎を築くのが本学の使命だとしたら、西洋古典学は、そのための最重要科目の一つではないだろうか。本格的な西洋古典学を学べる場は、全国的にもわずかしかない。神戸市外国語大学は、その貴重な場であることを自ら放棄するのか、と。

大西先生の長年の貢献に応える方法があるとしたら、それは本学が、「大学」であり続けることしかないのではないだろうか。